

気候変動リスクを低減し、豊かな地球を守ります。

CSR
重要課題

CO₂排出量の抑制
再生可能エネルギーの開発・受入れ
原子力発電所の安全・安定運転



再生可能エネルギーや原子力の活用など、「電源の低・脱炭素化」に取り組むとともに、更なる「電化を推進」することで、地球温暖化の原因であるCO₂の排出量を低減します

再生可能エネルギーの積極的な開発

国内最大級



八丁原発電所（大分県）

地熱発電

マグマの熱エネルギーを利用し、発電時にCO₂を排出しない

国内における九電グループの再生可能エネルギー設備保有量(*)は日本で第3位
(*)2020年2月末時点。水力除く

再生可能エネルギーの最大限の受入れ

世界最大級



豊前蓄電池変電所（福岡県）

蓄電池変電所

太陽光や風力などの発電量の変動に応じて充放電

2030年までに九州におけるCO₂削減必要量の70%の削減に貢献

原子力の活用



川内原子力発電所（鹿児島県）

原子力発電

ウラン燃料の核分裂時の熱エネルギーを利用し、発電時にCO₂を排出しない

電化の推進



オールデンカー（オール電化実演車）

EV（電気自動車）

電動機（モーター）を動力源とし、走行時にCO₂を排出しない

気候変動リスクを低減し、豊かな地球を守ります。

CSR 重要課題

CO₂排出量の抑制

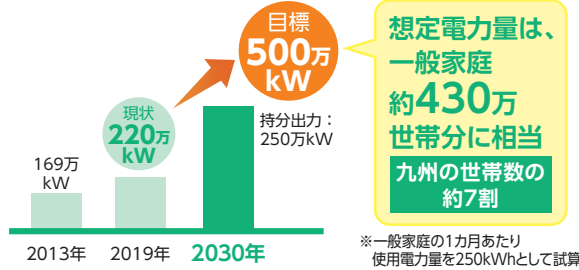
再生可能エネルギーの開発・受入れ

お客さまのニーズ・課題を踏まえたエネルギーサービス



再生可能エネルギーを積極的に開発しています

再生可能エネルギーは、地球温暖化対策に加え、国産エネルギーの有効活用といった側面でも優れた電源であり、強みの1つである地熱や水力の開発に加え、洋上風力やバイオマス発電などにも、積極的に取り組んでいます。



[2019年度末、海外含む]

発電の種類	九電グループ開発量
太陽光	約9.4万kW
風力	約11.5万kW
水力	約128.2万kW
地熱	約54.8万kW
バイオマス	約16.5万kW
合計	約220万kW

発電時にCO₂を排出しない原子力の活用により、CO₂排出量を抑制します

原子力発電による火力発電の割合の低下により、CO₂排出量を大きく抑制しています。

2019年度の原子力発電によるCO₂排出抑制量 (九州電力株)

約1,000万トン
(一般家庭 約240万世帯分)

CO₂排出抑制量は、合計で一般家庭約290万世帯分に相当九州の世帯数の約半数

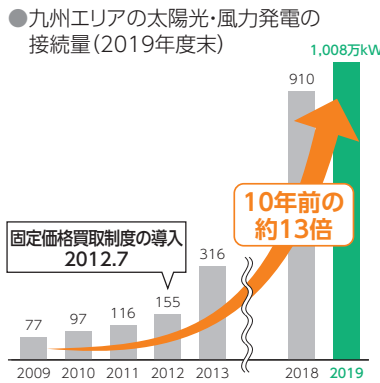
表中の再生可能エネルギーによるCO₂排出抑制量約200万トン (一般家庭 約50万世帯分)

※2018年度のCO₂排出係数(調整後)及びJCCCA(全国地球温暖化防止活動推進センター)ホームページ「家庭からの二酸化炭素排出量(2018年度):約4,150kgCO₂/世帯」を使用して試算

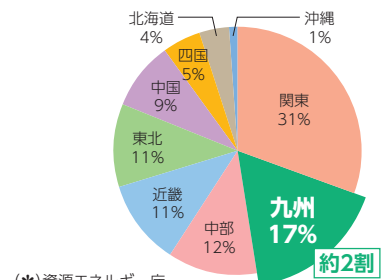
再生可能エネルギーを最大限受け入れます

九州電力送配電(株)では、春・秋など比較的電力需要が少ない時期に太陽光発電の一斉稼働により供給力が急増した場合などは、揚水・火力などの発電設備の稼働を調整することで需要と供給のバランスを保っています。

また、大容量蓄電池の活用など再生可能エネルギーを最大限受け入れるための技術開発にも取り組んでいます。



●太陽光・風力導入量の全国に占める割合(※)



(※)資源エネルギー庁「固定価格買取制度 情報公開用ウェブサイト」のデータをもとに作成(2019年12月末時点)四捨五入により合計が含まない場合がある

オール電化やEVの普及促進などによる電化を推進します

九電グループでは、高効率給湯機であるエコキュートやIHクッキングヒーターを中心としたオール電化を推進しています。

また、九州電力(株)及び九州電力送配電(株)では、社有車のEV100%化(~2030年度)や「EVシェアリング」の普及促進などに取り組めます。

●オール電化の推進

住宅リフォームをコンセプトとする体験型ショールーム「きゅうでん e-住まい」やオール電化実演車「オールデンカー」などを活用した電化の普及活動を展開しています。



「きゅうでん e-住まい」でのIH調理体験

●EVシェアリングサービスの開始

九州電力(株)は、マンション入居者の「安心」・「便利」・「リーズナブル」なカーライフを実現するため、EVシェアリングサービス「weev(ウィーブ)」の提供を2020年12月から九州及び首都圏で開始します。



活用予定の電気自動車(例)テスラ/モデル3